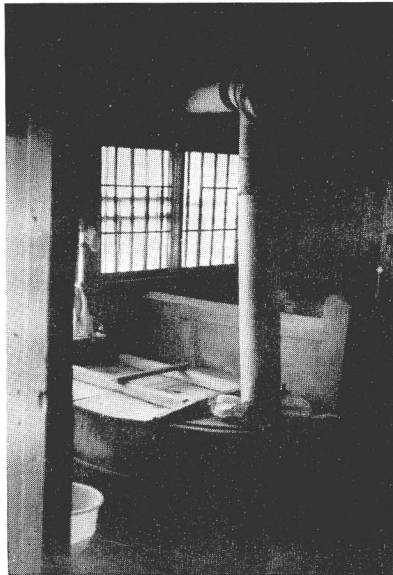


かつての土間の古い住い方（中荒井）



とんぼぐちにある風呂場と小便所

制限がなくなったから立派な玄関などを設けているのも目立つようになった。

土蔵・小屋などは別棟で、多くは切り妻であるが、特に土蔵を母屋につけて、奥座敷から、さらに奥々の座敷というように、座敷にとり入れてあるのがある。これをくらざしきと呼んでいるが、恐らく、裕福になった家などで、家財を火災などから護るために考案された建物と思うが、会津地方には特に目立ってみえる。

もう一つ、これは屋敷造りとも関係が深い、古くからの洪水常習地としての、石垣を高くして、屋敷を盛りあげるなり、土堤を築いたり、床を高くして防災に当てている建築が、特に鶴沼川の氾濫原の新田などにはみえる。

3、母屋の間取りと住い方の変化 間取りの基本としては、